

人生ハンド仏句

第70号

H. 20. 1. 1
(毎月1日発行)



謹んで新年のご挨拶を
申し上げます

住職 谷川寛俊

人という字は人と人が支え合っている姿を表しています。互いに支え合い励まし合ってこそ「人間らしい生き方」と言えるのではないでしようか。相手を思いやり、相手の身になって行動することによって、人間の尊厳も保障され、平和な社会も築かれていくのでしよう。競争を奨励し、格差を助長する世相の中で今一番求められているのではないかと思えます。そういう意味もあって、去る十二月二十二日「冬至の日」初めての試みとして、水行祈願祭を開催しました。これは副住職の企画で、一年間の垢を洗い流し来るべく希望に

満ちた新年を迎える為に住職・副住職は勿論の事、一般檀信徒からも希望者を募ると、何と女性の方五人が名乗りを上げました。(内、住職妻、副住職妻)その他三人、他に小学生の男の子三人、高校生一人、一般の方八人の計十八名(欠席者三人)の熱烈なる不惜身命の信仰者が現れ、大勢の方々が見守る中「世界平和、お題目流布、それぞれの心願成就、そして何よりも自らの罪障消滅等々を祈つての水行を行いました。お蔭様で大変めずらしい企画とあって、新聞各社が大勢取材に来られ、二社がトップ記事として一面に大きな写真入で報道されました。

企画当初たぶん賛同者がいないだろうから我々寺族の者でとにかく一度やって見ようと弱気になっていたのですが、有り難い誤算となり「私も是非一度体験させて下さい。」「孫の高校受験でその合格成就を祈つて。」「又、地元のテレビ局のアナウンサーなどは「今日取材に伺いますが、私も是非仲間に入れて下さい」とか、美容院の店長、居酒屋のマスターと従業員等々.....

本当に熱い気持ちを持っている人達ばかりで、終了後のアンケートでは、「気持ちシャキッととして、良かった」、「新たな自己発見が出来ました」、「来年も必ず参加したい」など、心強いものばかりでした。

私も副住職も、二百日、三百日もそれこそ寒中マイナス三、四度の時、氷を割ってかぶった体験があるからいつでもかぶれるという自身はありますが、特に女性の方が、それも真夏ならばいざ知らずこの寒い時節に水をかぶるといふ初めての体験は、本当に勇氣と強い意志がなかったら出来るものではありません。

そういう意味で、他の女性二人の方、我妻と嫁いで二年目の知世さんに対し、改めて深甚の敬意を表したいと思えます。

何はともあれ、法華經の信奉者、雨二毛負ケズ.....で有名な詩人、宮澤賢治の「世界全体が平和にならなければ、個人の幸福は訪れない」の言葉通り、今年こそ少しでも良い年になりますよう、皆様と共に熱禱申し上げます。何卒本年も宜敷くお願い申し上げます。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

微笑みは微笑みと
呼ぶ春の風